

保健師教育、助産師教育ワーキンググループで 出された臨地実習に関する現状と課題

【保健師教育ワーキンググループ】

- 実習施設が不足しており、実習期間が短かったり、見学中心であったりするため、保健師としての実践能力を身につけるのが難しくなっている。
- 保健師が分散配置されているため、実習できる場所が限られている。また多くの学生が実習に来るため、実習を受け入れる現場側の負担が大きい。

【助産師教育ワーキンググループ】

- これまで実習を行ってきた規模の大きな病院では、産科施設の集約化によりハイリスクの妊産婦が増えている。そのため、正常産を10例確保するための実習施設の確保が困難になってきている。
- 実習施設が分散化し、教員が直接指導することが困難になり、臨床現場の指導者が多く担っている。
- 助産師を希望する学生は多いが、例数や実習施設の確保、教員数等により養成数を増やすことは難しい。
- 妊娠期の実習を行いたいと考えても、指導できる助産師が少ない。